

『ISOKINETIC Bologna』での研修から学んだこと

人間総合科学研究科 体育学専攻 博士前期課程2年 影山 絢子

研修施設：ISOKINETIC Bologna

国：イタリア(ボローニャ)

研修期間：2019/07/15-2019/07/26



目的：

スポーツと医療が密接な関係性にあり、スポーツの支援体制が確立しているヨーロッパの環境や現状・考え方に触れ、日本との違いを学び必要性を考える。

実施内容：

スポーツと医療の関係性・スポーツの支援体制・障害予防への取り組みなどについて学ぶために、イタリアにある ISOKINETIC Bologna というスポーツ医療とリハビリテーションを専門とする FIFA 認定(2009年)の医療センターで研修を行った。研修内容は、ISOKINETIC のリハビリテーション治療やトレーニング場面の見学、治療の補助、トレーニングの体験などであり、治療場面として屋内での術後の Gym リハビリテーション・Pool・Green Room・屋外 Field などがあった。

ISOKINETIC のリハビリテーションは、整形外科疾患を対象に患者はスポーツでの受傷が多く、怪我による機能低下に対する回復のための治療だけでなく、筋力や持久力の向上・動作スキルの獲得など全身的な機能の向上により生活やスポーツ・仕事などに復帰することを目的としている。そのために患者の状態に応じた ISOKINETIC 独自の方法で段階的な治療やエクササイズを実施することで、基礎的体力から持久力や応用動作能力を高めて復帰できるように一貫して支援している。



効 果：

ISOKINETIC のリハビリテーションは日本の概念とは大きく異なっており、リハビリテーションの在り方や怪我からの復帰についての考え方を知ることができ、その考えに基づいた段階的な治療場面を見学できた貴重な体験であった。もとの生活や社会へ復帰するには怪我により失った機能や低下した機能を取り戻す必要があり、それには機能回復のための段階的なステップを踏んだトレーニングが必要であり、さらに再受傷を予防するためには動作方法の習得なども必要である。ISOKINETIC では、多様な環境に適応できるように Field でのトレーニングを重要視しており、医学や運動についての専門的な知識を有したセラピストが治療を展開している。

イタリアと日本で医療や保険制度が異なるため、ISOKINETIC システムそのものを日本に導入することは困難と思われる。しかし、リハビリテーションに求められるものは？リハビリテーションの役割とは？怪我からの復帰とは何なのか？を再考させられる経験となった。

考 察：

スタッフ同士・セラピストと患者・患者同士の会話が多く、信頼関係が成り立っており、ISOKINETIC が大切にしているヒトとのつながりや関係性を感じた。身体機能や動作スキルを獲得して復帰するには時間と労力をかけてトレーニングを積み重ねる必要があり、その過程で強い絆も生まれてくるのではないかと考える。

生活への復帰・スポーツへの復帰・仕事への復帰など人それぞれに復帰の意味合いは異なり、環境や必要とされる身体機能も異なる。ISOKINETIC では、生活・スポーツ・仕事などへ復帰するための身体機能向上・持久力向上・技術の向上・再受傷予防のための動作獲得などを図り、急性期のリハビリテーションから段階的な治療を多様な環境下で展開し復帰まで一貫して包括的に支援している。それには、身体の機能や構造、怪我や病気などについての医学的知識が必要であり、かつエクササイズプログラムを立てて運動強度を設定するために運動学や運動生理学などの知識を有する必要がある。そこにリハビリテーションの果たす役割があるのではないかと考える。身体についての専門的知識を有し適切な運動を処方することのできるセラピストの存在と、多様な環境下での運動を通して身体能力を高めるとともに障害予防のための知識を得て動作を習得することが重要であり、復帰を促進させることができると考える。